

評価方法に関するコメント

- 技術等検討小委では判断しないものの、策定会議で判断できるような評価が必要。
- 策定会議で最終的に得るべき結論を踏まえ、その判断が可能な情報を提供する必要がある。すなわち、
 - ・ 今、判断しなければならぬものは何か。
 - ・ 今、判断できて、判断した方が良いものは何か。
 - ・ 今、判断できないもの、判断しない方が良いものは何か。を考慮して、a. 既存施設に関する政策、b. 将来技術に対する開発の進め方、に関する結論を得るための情報を整理する必要がある。
- 「短中期の選択肢」と「長期の選択肢」に分けるのではなく、「短期の選択肢」と「中期の選択肢」に分けて考えるべきではないか。長期と同様、中期(10～20年)についても、今、確定的には決めない方が多いことが多い。
- 例えば、以下のような手順で検討を進めるのが一案。
 - ① 最初から膨大な整理表を作成・提示するのではなく、まず、評価軸の選定、各評価軸の評価のポイント、「評価軸」の重み付けを議論し、決める。コストに偏らないように留意が必要。
 - ② 各シナリオ(短期と中期の選択肢の組合せ)のスクリーニングを行う。その際、①で重要とした評価が行えるように、「代表シナリオ」を選定する。
 - ③ ①、②を受けて、選定した「代表シナリオ」について、重要とした「評価軸」で、できるだけ定量的な評価を行う。定性的な評価軸についても、例えば、○△×等で、半定量化することが重要。
 - ④ また、②のスクリーニング作業においては、短期と中期の組合せに関する課題や懸案事項の抽出、整理することも重要である。(特に、中期の選択肢の可能性を幅広く残し、それを必要十分なコストで維持する方策、などについて、情報を整理し、策定会議に提示できるように)
- 別案としては、以下のような検討方策も考えられる。
 - 「短期的な選択肢」は今決める必要のあるもの、「中長期的な選択肢」は今決めない方が多いものも多い。
 - このことを踏まえて、シナリオを、上記のような
 - 「短中期的な選択肢」+「長期の選択肢」の組合せで考えるのではなく、例えば、
 - 「商用技術の当面の施策」+「長期的な選択肢の開発の進め方」の組合せという、今決めるべき内容のみで設定し、比較・評価を行う。